

運営推進会議開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議を開催したことを報告します。

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	石濱 千秋	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 開催日時・場所

日時	令和 6年 11月 8日13時30分 ~14時	場所	医師会館理事長室(オンラインと併用)
----	-------------------------	----	--------------------

3. 出席者

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
木下 均	地域住民の代表者	中川連合町内会 会長
石井 広美(zoom)	当該サービスに知見を有する者	中川地域ケアプラザ 所長
堀元 隆司(zoom)	当該サービスに知見を有する者	堀元歯科医院 院長
小林 雅子	当該サービスに知見を有する者	小林クリニック 副院長
栗栖 純穂	当該サービスに知見を有する者	センター北 ユア クリニック 院長
菅井 直樹(zoom)	市の職員又は地域包括支援センターの職員	都筑区役所 高齢者支援課係長
深澤 立(欠)	当該サービスに知見を有する者	都筑区医師会代表理事
石濱 千秋	事業所職員	管理者
宮島 佳代	事業所職員	統括管理者
青柳 かおる	事業所職員	副管理者
羽後 みゆき	事業所職員	介護主任
前田 仁美	事業所職員	介護主任
後藤 瑞佳	事業所職員	事務
加藤 萌子	事業所職員	事務

4. 活動状況報告

別紙(様式2~4)のとおり

(裏面あり)

5. 活動状況に関する評価・意見・要望

①事例報告について

⇒同居家族の急逝に対し、対応で感謝しています。今の介護は、家族が負担すればよいという自分たちの時とは違う、家族を支援するスタンス。狭間に挟まれる施設には、感謝しています。スタッフも減って、介護報酬も減らされている現状、ナーシングが困っていることはないかと考えます。

⇒困ったときに助けになる施設、地域包括の核になる施設だと思います。人材不足はどこも慢性的ですが、こちらでも出来ることあれば、考えていきたい。

②インシデントレポートについて

⇒人材不足により、事故が起きやすくなると思うが、その対応、周知する工夫など教えていただきたいです。

⇒みなさん大変だと思います。スタッフの求人も来ない。仕事の内容を見直して負担ないようがんばってください。

6. 評価・意見・要望に対する考え・取組

上記①について

⇒今後も柔軟に対応していく。人材不足は慢性的です。調理は職員一人の為、食事をする利用者が増えると手が回らなくなるので、介護職に協力してもらっています。

上記②について

⇒すぐに主治医、かかりつけ医に連絡を取り、家族への報告、事実を伝え誠実に対応しています。スタッフには、レポートを書いてもらい、スタッフに周知し、事後の改善方法など話し合い対応しています。

7. 地域からの情報提供

特になし

8. その他特記事項

特になし

※ 会議は原則事業所内で行ってください。
やむを得ず他の場所で開催する場合、必要に応じて事業所内の見学を行ってください。

活動状況報告書(看護小規模多機能型居宅介護)

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	石濱 千秋	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 登録者の状況 令和6年 10月

登録者数(10月 31日現在)	女性 16名	男性 4名	計 20名
要介護度	要支援1 0名	要支援2 0名	要介護1 2名
			要介護2 3名
			要介護3 1名
			要介護4 3名
			要介護5 11名
			申請・区変中 0名

3. サービス提供回数(会議開催の前月分)

登録者(匿名)	通い	泊まり	訪問	備考(入所日、退所日など)
ア	18	4	26	3 (訪問看護)
イ	14	0	27	2
ウ	9	0	17	2
エ	25	3	0	1
オ	21	0	41	2
カ	0	0	30	18
キ	13	6	12	31
ク	17	0	21	17
ケ	7	0	10	11
コ	24	21	6	6
サ	13	9	5	4
シ	8	0	14	12
ス	12	3	17	5
セ	22	12	7	30
ソ	27	25	6	75
タ	31	30	2	89
チ	11	2	17	25
ツ	14	2	34	0
テ	10	0	39	21
ト	11	3	19	0
ナ				
ニ				
ヌ				
ネ				
ノ				
ハ				
ヒ				
フ				
ヘ				
平均	15.35	6.00	17.50	平均要介護度 3.90

(裏面あり)

4. 運営方針

事業所の目標	1.看護・介護の連携強化及び同法人内事業所と一体的に協力体制の維持。 2.安心で安全な質の高いケアの提供を行うために、職員教育を充実させる 3.看多機について普及啓発の継続/地域住民との連携/街づくりへの参画
目標に向けた具体的取組	1合同カンファレンスの継続、伝言ツールの利用継続等による情報共有 2-1)介護職員の医療的ケアの理解を深める(研修の実施) 2-2)終末期ケアの理解を深める(研修等の実施、外部研修参加等) 3主治医や地域包括支援センター等との連携の強化・情報発信、イベント開催

5. 活動報告

【9月】 ・安全衛生委員会・管理者会議(9/2) ・運営推進会議(9/13) ・都筑区(看護)小規模多機能型居宅介護連絡会出席 ・運営推進会議・運営会議・喀痰吸引会議・身体拘束/虐待報告検討会議・BCP策定会議・感染症対策委員会(9/26) ・アート活動「Kitpas×K-ART」(9/20)
【10月】 ・管理者会議(10/7, 28) ・運営会議・喀痰吸引会議・身体拘束/虐待報告検討会議・感染症対策委員会(10/24) ・アート活動「Kitpas×K-ART」(10/25) ・認知症連絡会出席(10/29)
毎週水曜日:ヘルパー/看護会議(内2回合同会議/カンファレンス) 毎週木曜日:一体化会議

6. 事故・ヒヤリハット報告

内容	当日の午後から胃ろうの交換で、昼の栄養注入は中止となっており、注入手順書はボックスへしまい、使用する器具は部屋に置いてあったが、通常通り注入してしまった。 ホワイトボードに記載していたが、注入手順書に「中止」の記載がなく、栄養注入中止のスタッフの共通認識が浸透できていなかった。
改善策	・注入手順書に中止の旨の紙を貼る。 ・当日の水分排泄表にも中止の旨の紙を貼る ・朝の注入が終了したら、使用する器具は片付ける

内容	時間薬の内服の際、ご本人が入浴中だったため、入浴後内服することにしたが、そのまま忘れてしまい、他の利用者の時間薬の際に薬が残っていることに気づいた。主治医に確認し、すぐに内服してもらった。 入浴中と言われ、服薬できず「後で」と思い時間薬ケースに戻した。 アラームも掛けなかった為忘れてしまった。
改善策	来所されたら、薬確認後すぐに内服する。

7. 地域への情報提供

・事例報告 「介護者(ご主人)の急逝により、急遽登録、連泊となった事例」

8. その他特記事項

特になし
